



寒い雪原を
滑る風景を連想する「そり」は、
韓国語で音を意味します。私たちをとりまく
環境は言葉を話せない代わりに、かすかな信号で私たちに
呼びかけます。アートの立場から、そして科学の立場から、環境に
耳を澄ませてみたら、どんなメッセージが聞こえてきたのでしょうか。
北海道大学 CoSTEP では、2018 年から KitA (キタ:Kagaku into Art)
というアーティストインレジデンスプログラムを行っています。

本展示では、その初めての成果発表として、北大で滞在制作をしたアーティスト
上村洋一さんと、CoSTEP スタッフであり、アーティストの朴炫貞の作品を展示します。

北海道斜里の流水の音や、北大天塩研究林の雪、伐採現場などを題材にした作品を通して、
人と環境との関わりについて考えます。また、北海道で活躍する研究者による環境に
対する視点を、研究にまつわる資料を通して紹介します。環境の変化が生き物に与える
影響を何十万年単位の地層から調べる研究や、世界中の仲間と一緒に地球環境のメカニズムを解明していく研究、また氷のシダのようなフロストフラワーや、雪の中の微生物
の休眠が雪を鮮やかに染める赤雪、オホーツク海の蜃気楼、南極のトッテン氷河
まで、環境にまつわる多様な研究が展示されます。自然を対象とした科学者の
研究を通して、環境への新しい眼差しを提供します。近いようで遠い、
環境と私たちの生活。科学とアートの視点から一步踏み込むと、
見えてくる風景があります。そりにひかれて、科学とアート
で環境をめぐり、その滑り出しの瞬間に聞こえて
くる音に耳を傾けてみませんか。



"scratch the snowfield" 2020, video installation

朴 炫貞 ぱく ひょんじょん
韓国生まれ。北海道在住。韓国芸術総合大学と武蔵野美術大学大学院で芸術を学ぶ。博士(造形)。言葉の間、言葉のイメージと音、形の間、生と死の間、時間の間、国との間、科学とアートなど、様々な境界においてモノコトをカメラを通して見つめ、記録している。記録の中で見えてくる、普通が特別になる瞬間を集めて、記憶の空間として体験する作品を目指している。2015 年からは北海道大学で科学技術コミュニケーションを実践研究しながら、ローカルとグローバル、学問の分野間、研究者とクリエイターをつなぐ場づくりを作品制作と同時にしている。
www.hyunjungpark.com



"reforest" 2020, video installation



南極のトッテン氷河を観測して、
地球温暖化の原因を明らかにする



氷のシダ、
フロストフラワーを解明する



微生物の共生関係から、
赤雪を明らかにする

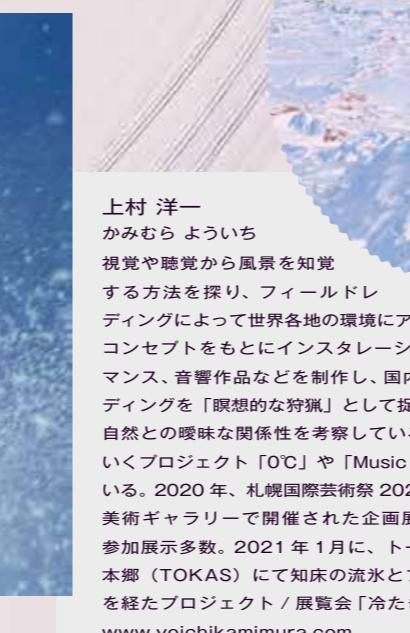
そりにひかれて 科学とアートで環境をめぐる

2020.12.19 SAT — 2021.1.24 SUN

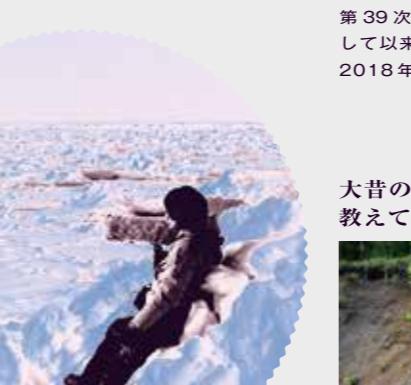


そりにひかれて 科学とアートで環境をめぐる

2020.12.19 SAT — 2021.1.24 SUN



上村 洋一
かみむら よういち
視覚や聴覚から風景を知覚
する方法を探り、フィールドレ
コーディングによって世界各地の環境にアプローチし、そこで得た素材や
コンセプトをもとにインスタレーション、絵画、サウンドパフォーマンス、音響作品などを制作し、国内外で発表。フィールドレコーディングを「瞑想的な狩猟」として捉え、その行為を通して、人間と
自然との曖昧な関係性を考察している。また自然環境を音で捉えて
いくプロジェクト「0°C」や「Music for Environment」を運営して
いる。2020 年、札幌国際芸術祭 2020 への参加や、水戸芸術館現代
美術ギャラリーで開催された企画展「道草展」、ICC での個展他
参加展示多数。2021 年 1 月に、トーキョーアーツアンドスペース
本郷 (TOKAS) にて知床の流水とブラジル・アマゾンのリサーチ
を経たプロジェクト / 展覧会「冷たき熱帯、熱き流水」を開催予定。
www.yoichikamimura.com



大昔の小さな生き物が
教えてくれる当時の環境



沢田 健 さわだ けん
北海道大学大学院 理学研究院 教授
博士(理学)。何十億～数千年前の堆積物を採取し、
そこから検出される有機分子を用いて過去の温度
を推定している。さらにその数値を環境物理
モデルに適用し、海流や気候などの自然現象の
システムとそれに対する生物の応答を調べている。

加藤 知道 かとう ともみち
北海道大学大学院 農学研究院 准教授
博士(工学)。オホーツク海沿岸に出現する蜃気
楼「幻」。地元の愛好家とともに「幻」発生の
メカニズムを解明した。普段の研究では海水の
量や質の変化のデータを収集し、それを用いた
北極海氷利用の研究をはじめとし、大気や洋
への影響を研究している。

舩山一孝 たてやま かずか
北海工業大学 水文学・海洋学
北海環境研究室 准教授
博士(工学)。オホーツク海沿岸に出現する蜃気
楼「幻」。地元の愛好家とともに「幻」発生の
メカニズムを解明した。普段の研究では海水の
量や質の変化のデータを収集し、それを用いた
北極海氷利用の研究をはじめとし、大気や洋
への影響を研究している。

寺島美里 てらしまみり
北海道大学低温科学研究所 研究員
雪解けの旭岳では、雪の表面がうすい赤染まつ
「赤雪」が見られる。その正体の微生物、氷雪藻の
生態について研究している。氷雪藻はバクテリア
などでは生きられないことを手掛かりに、雪の
中にお生する微生物どうしのネットワークを明か
にすることを目指す。

#そりにひかれて

sorinihikarete

sori2020.com